



森と水の源流館 だより

December, 2010 vol.96

電話) 52-0888 fax) 52-0388 (水曜休館)

残しておきたい川上村の山言葉 其の十二「しもおれ」

意味:霜の降りた朝に途中から天気の悪くなること

※川上村の方言の意味や使い方などについてのご意見をお待ちしております。

クリスマスツリー展示



12月12日(日)～25日(土) 森と水の源流館前広場にて

ライトアップ 17:00～20:00(休館日を除く)

今年は川上七木(スギ、ヒノキ、アカマツ、ツガ、トガサワラ、コウヤマキ、モミ)の常緑針葉樹からヒイラギやサカキなどの常緑広葉樹のツリーに変わります。この機会に身近な木をじっくり観察してみましょう。

まだ間に合うイベント案内

もりみず探検隊 「御船の滝氷瀑ツアー」

氷瀑と山の幸バーベキューなど冬のグルメを楽しみます。

●1/30(日) ●9:30～15:30 ●定員 20名 ●小学生～

●参加費:大人 4,000(2,800)円/小中高生 2,000(1,000)円

※お申込み・お問い合わせは、森と水の源流館まで

※()内の料金は源流人会会員割引価格

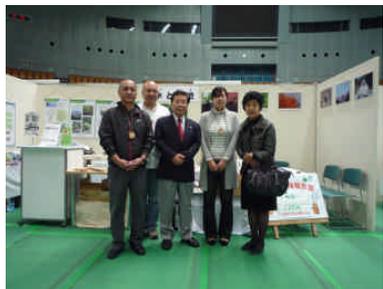
※小学生以下の参加は保護者の参加も必要です

※ボランティアスタッフとして、一緒に歩いていただき、盛り上げていただける方も募集しております。お気軽にお問い合わせ下さい。

▲ 2009年の川上七木クリスマスツリー

11/13~14 和歌山ふれあい人権フェスタ

和歌山ふれあい人権フェスタに出展しました。これは川上村を応援してくれているグループ 水と大地との共同出展で“和歌山市民の森づくり”などを中心にPRを行いました。市民の森づくり参加者を始め、学習教材配布で川上村を知った子供たちも大勢訪れてくれました。



和歌山市長の訪問もありました



工作体験も実施しました。

11/27 “吉野川の岩石をしらべよう”

吉野川沿いの地学ポイントの観察会を開催しました。講師は『大峯山・大台ヶ原山』等の著書がある奥田尚先生にお願いし、不動窟や白屋の白土採掘場跡、東川の川岸に露出している枕状溶岩などを観察しました。参加者には小学4年生の女の子もいて、紀伊半島の成り立ちを物語る岩石に興味を示していました。



河原で、まくら状溶岩を観察



白屋の坑道跡には小さなしょう乳石が出来ていました。

12/4-5 神戸夙川学院大学が来ました

神戸市から神戸夙川学院大学の観光文化学部の講義「自然環境保全論」の実習が一泊二日で行われました。毎年、前期後期で行われてきて、今年で4年目、計8回目となりました。参加した学生は18人で、初日は「吉野川源流—水源地の森」で源流部の自然の大切さを学び、二日目は、上谷地区の散策と、柏木地区でのマキ割体験などを行いました。

この講義の担当講師の河本大地さんには夏に行われた、「(社)近畿建設協会支援シンポジウム“水源地の村”からの提言」の中でも、この活動についてご講演いただきました。川上村の自然環境と体験活動、何より、村民のみなさんとの交流を楽しみに、毎年実習先に選んでいただいています。

上谷では区長さんはじめ、区民の皆様方に暖かく迎えていただき、お話をさせていただきました。学生たちは少し緊張していたようですが、後日談としては満足していたそうです。また、柏木では村民のボランティアさんの協力で、マキ割の指導や交流を図っていただきました。特にマキ割は楽しそうでした。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



水源地の森で記念写真



上谷地区で、地区のみなさんからお話をうかがいました。



柏木地区でマキ割り体験